

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	百貨店（売場主 任）	来客数の動き	・気温低下が進まないなか、価格訴求素材には顧客が興味を持つことが多く、売上増につながっている。若干秋物商品は例年より遅れがみられる。
		スーパー（店 長）	競争相手の様子	・特に競合店の買収であったり、そうした様子のお話があるので、客が流れてきているのではないかと思っている。
		コンビニ（店 長）	お客様の様子	・天気も良かったため景気は悪くはなかった。しかし、同じ8月でも前年、前々年と比べると、特段良くなっている。むしろ、前年と比較すると、少し悪くなっている。ただ、ここ最近の3か月間の前年同月比などを考えると前年並みに戻っている。天気も良く、アイスクリームなど一般的に夏に良く売れる商品はしっかりと売っていたため問題はないが、利益面・売上面を考えると前年よりは悪くなっている。3か月前の前年同月比に比べ今年は多少改善され、3か月前よりは良くなった。
		家電量販店（管 理本部）	販売量の動き	・季節商品の売行きが好調で全体販売量が前年同月実績に近づいている。
		一般レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・8月11日から19日までの長いお盆休暇となった企業があったほか、お盆休みを利用して旅行に行ったり、いつもの年より長く帰省したなどの話があった。また、3世代のファミリー客も多く見られた。来客数もオリンピック終了後から好調に推移し、お盆期間が終わった今も好調である。
		通信会社（役 員）	販売量の動き	・アナログ放送の地上デジタル放送移行完了から1年が経過した。移行の過程で解約が多く発生したが、現在は落ち着いており、その結果、解約数の前年同月比は大幅に縮小、改善している。
		住宅販売会社 （従業員）	お客様の様子	・土地取引のスピードが速くなり、客の動きが増えている。
		住宅販売会社 （従業員）	お客様の様子	・社会保障と税の一体改革関連法案の衆・参議院通過による影響か、7月、8月と各展示場の来場者が急増している。
	変わらない	商店街（代表 者）	来客数の動き	・売場は初秋ものになったが、連日の酷暑のため来客自体が減っている。
		一般小売店〔鮮 魚〕（従業員）	お客様の様子	・オリンピック開催期間は外出より家で試合を見ている時間が長く、いつものように外食産業は暇になる。加えて猛暑の影響もあってなおさら外出が減っているようだ。
		百貨店（営業担 当）	競争相手の様子	・この8月を一言で言えば「猛暑とオリンピック」に尽きる。家の中でいかに快適に過ごすかといったことが消費のキーワードになっており、一昨年来、例えば旅行に出たりとか、あるいはちょっとした食事に出るとか、こういった動きが非常に少なくなり、当然身の回り品、ファッション関係はちょっと厳しい動きだった。前年に目立ったクール・エコ素材も、前年買っているから今年は購入しない客が多く、全体的には厳しい8月だった。
		百貨店（営業担 当）	単価の動き	・夏商材である8月に着るTシャツやカットソーの動きに加え、天気の不安定さからか、初秋物や秋物の動きもよく、前年の売上を程良く大幅にクリアすることができた。
		百貨店（営業担 当）	来客数の動き	・全体的に来客数が復調しておらず、特にお盆以降、微減傾向になっている。
	百貨店（売場担 当）	単価の動き	・夏休み休暇やお盆の帰省の客が大変多くみられた。通常来ていない客や県外客が目立った。しかし、全体では売上は前年同月比が96%と苦戦をしている。領域別には、衣料品は、バーゲンの継続と秋物が好調にスタートしており、婦人服はミセスゾーンが前年同月比101%と好調だが、紳士服・子供服は同98%、インテリア雑貨は同97%、食品は同95%と下回っている。結果、全体では苦戦をしている状況である。	

スーパー（総務担当）	販売量の動き	・旧盆時期は帰省客の来店があり売上も増加する時期だが、今年は曜日まわりのため分散化してピークが無かったが、期間集計ではほぼ前年並みの売上が確保できた。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・8月のお盆でとらえるとオードブルやギフトなどの1品単価が下がっており、節約傾向は変わらないと思われる。また、企業としての採用状況も前年並み、また前年卒業者で正社員になれない方も25%程度いると聞いているので上向きながらも状況は変わっていないと思われる。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数、客単価ともに微減の状態、総販売量も微減という状態が続いている。カテゴリー別に見ると、好調なものもあれば不調なものもあり、良くなっているところと悪くなっているところがあるというのが現状である。ファストフード類やデザート類、アイスクリームなどについては、好調に推移している。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年は、業界再編成による準備期間の中で多くの店がクローズ中だったため、当店では売上が好調だったが、今年はその数字に遠く及ばないという状況が続いている。特に、たばこの売上の落ち込みが顕著だと感じている。
コンビニ（店舗管理）	単価の動き	・売上好調な店舗や、新規店舗においても、客単価の前年割れが継続的に起きている。
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	全く低調である。別件の情報だが、福井は織物の産地で機屋どころである。ウォータージェットやエアジェットをはじめ9000台近くあるが、今年になってから50～60%程度の稼働率になっていると話をする人もいる。大変機屋は悪いようである。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・暑い日が続いているため夏物の処分品は売れているが、単価が低いので売上は上がらない。
衣料品専門店（総括）	お客様の様子	・来店客がハイプライスの商品に興味を持ってくれない。またロープライスでも、悩んだ末に買わないという状況が多くみられた。購買意欲はまだ高くない。
家電量販店（店長）	お客様の様子	・連日の真夏日にてエアコンの販売数量は良かったがそれ以外の商品群の動きが悪い。
乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・7月までは、エコカー補助金などがあり計画通り受注をこなしていたが、8月に入ってから急に受注が止まった。計画の60%位で推移している。販売の方は受注残をこなしているためそこそこだが、来月以降は大変厳しい状況になると予想される。
乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・エコカー補助金、エコカー減税効果で、前年同月比で車の販売量は138%である。しかし、前々年同月比では80%にしかならず、個人消費が確かに増加したとは言いきれない。
その他専門店【酒】（経営者）	販売量の動き	・景気が本当に悪い。ものが売れない、お金が作れないの悪循環の繰り返しで、この先どうなるか、大変心配している。
その他専門店【ガソリンスタンド】（経営者）	お客様の様子	・現状、暑さの影響で客の動きはあるが、実際の客の購買という観点からは、変わらない状況だと感じる。
その他専門店【医薬品】（総務担当）	来客数の動き	・今年の夏は、節電が例年以上に呼びかけられたため、その関連グッズの動きが活発であった。一方で、梅雨時に雨が少なかったため、虫さされや不快害虫用の商品の売れ方が例年と比べて少なかった。来客数は例年並みで推移し、飲料関係はよく出ているが、その他の商品の動きが少なく、客単価は減少している。
その他小売【ショッピングセンター】（統括）	販売量の動き	・夏季の衣料品の販売額が、新規店舗と既存店舗を合計した全体で前年同月比110%と堅調に推移した。ただし、その内容としては新規店舗の売上加算額分が大きく、既存店のみで前年同月比では103%とその伸び率は鈍化している。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・暦の配列の良いお盆期間だったこともあり、個人旅行客の集客が例年より10%程良く、単価も過去4年では最高だったため8月中旬は順調に推移したが、後半伸び悩みもあり、月でならずと前年並みの売上であった。
観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・夏休み期間では7月の下旬までは集客に苦戦したが、8月に入り北信越高校総体もあり、連日ほぼ満室状態であった。

	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・ディナーショーなどを含む総売上は前年同月比103%であり、前年を上回っている。しかし、ディナーショーを除いた売上は同97%であり、宿泊人員は同96%、宿泊単価は同99%となった。前年は東日本大震災の影響もありディナーショーを実施せず、この要因を除けば、団体客の減少が続いている。
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊は大型の大会などがあり大きく増加した。レストラン、宴会も順調に推移し全体としても前年同月比、前月比ともに増加している。
	通信会社（社員）	販売量の動き	・スマートフォン需要は確実に増えているが、想定範囲内である。
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・前月と比較して販売量は減少しているが、秋冬モデルを見据えた買い控えということもあるので、景気の動向と直接関係するかは判断が難しい。
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・携帯電話キャリア独自に複数購入に対する割引を行っているため、全体的な販売量は増えている。しかし、新規受付数の減少がみられ、新商品が活気づいていた時期と比較するとそれ以上ではない。
	競輪場（職員）	販売量の動き	・3か月前の売上平均とほぼ同額である。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・復興支援・住宅エコポイントの終了に伴い、客の動きが落ち着いた感じがする。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・客の動きは増えているものの、価格の安いハウスメーカーに流れている。展示場来場者の契約率が落ちている。
やや悪くなっている	一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・来客数、客単価ともに多少下がっている。
	一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・土曜日、日曜日の売上が非常に悪く、2学期スタート前の週末もあまり期待できそうにない。
	スーパー（店長）	単価の動き	・8月の状況をみていると、お盆の状況をみても感じる通り、曜日の配列状況が悪かったとはいえ、非常に旧盆期間は短い感じであった。前年と比べて、買上単価は低く、おもてなしの注文も非常に少なくなっている。
	スーパー（統括）	単価の動き	・客単価については全体的に2～3%低下している。青果物や野菜などの1品単価が前年と比較して低下しているのが大きな要因である。
	衣料品専門店（経営者）	競争相手の様子	・20日を過ぎても30度を超す残暑が続き、秋物の動きが弱い。
	家電量販店（店長）	販売量の動き	・お盆商戦は例年と比較しても盛り上がりはしたものの、継続せずに商戦時期が終了してしまった。またオリンピック需要も期待通りにはいかなかった。
	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・今月に入って来客数が極端に減少した。暑さの影響もあると思うが、異業種の会合に出席して聞いてみても、同様な状況で来客数は減少しているとのことである。
	乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・エコカー補助金対象車種の少ない輸入車であっても来場者や引合いに効果はみられたが、月半ばからは激減した。買える顧客層で一巡した感がある。
	住関連専門店（店長）	お客様の様子	・来客数がなかなか上がってこない。お盆の後が特に良くない。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・同業者からも客が少ないと耳にし、オリンピックも悪材料となったが、特別悪かった前年同月と比較すると3割増しで、今月は何とかといった感じである。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・オリンピックのテレビ観戦や猛暑で、客の出足が完全に止まってしまい、悪かった前年並みの販売量しか確保できない。また、夏休みの最後の週末となる月末が、土、日をまたぐ形になり、間際申込みの発生も期待できない。
	タクシー運転手	販売量の動き	・暑い日が続くのに日中の利用回数が上がらない。夜は相変わらず静かである。
	タクシー運転手	来客数の動き	・月の前半はオリンピック開催のため、夜の町は人出が少なく悪かった。また、猛暑日が毎日続き昼は外出を避ける傾向にあり、客待ちの時間が長く、良くなかった。
	通信会社（職員）	お客様の様子	・客の動きも消極的な傾向が強くと、景気の先行きに期待していないことから、現在の取引内容を見直す動きがどうしても出てしまう。
その他レジャー施設（職員）	お客様の様子	・夏の特別教室からの通常会員への入会数が伸びず、大変苦戦をしている。	

		美容室（経営者）	来客数の動き	・8月は猛暑が続き、特に中高年の客は外出する気分になれなかったようだ。
	悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑が続いている影響か入出が激減している。特に土曜日の減少が著しいような気がする。
		一般小売店〔事務用品〕（役員）	販売量の動き	・元々、6～8月はあまり物が動かず、売上が上がらない時期であるため、いたしかたないと思うが、今期に関しては、それにしても目標達成からかけ離れたパーセンテージしか売上を上げていないということが、非常に問題で心配になっている。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・前年同月と比べると、5%以上の客の利用減になっている。特にこれまで比較的堅調だった個人客も同様に推移している。5月の東京スカイツリーのオープン以降、営業販売において首都圏方面に流れる客が多く感じられ、当テーマパークの利用客のみならず北陸エリアへの来訪客が減少傾向にある。
企業動向関連 (北陸)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・今まで悪かった荷動きが回復している。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・8月まで一進一退の状況であったが、9月については受注も出ており回復傾向である。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・個人客からの問い合わせが、少し増えているように思われる。
		司法書士	取引先の様子	・店舗、工場、高齢者施設で、大きな建物新築があり、大規模な事業用土地購入もあった。
		税理士（所長）	受注量や販売量の動き	・量的な面では、受注や色々な引き合いが出ているようであり、状況は少しは安定しているのではないかと思う。中小企業が対象なので、個別差はあるが、頑張っている会社にはそれなりの成果が出てきている感じがする。
	変わらない	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・同業者の情報として、物量ベースで前年同月比90%を切るような話を聞いている。ただし自社では同100%を上回っており、他社との傾向が異なっている。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・円高および欧州の市況悪化のため、輸出関連の受注難が続いている。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・主力の住宅建材が、少し物件としては出ているといわれているが、数字として受注量の増加にまでは、なかなか出てこないのが実情である。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・生産水準としてはここ何か月間はほぼ同レベルで推移している。ただ好調な高付加価値機能商品がある一方で、低価格品以外の中途半端な価格帯のものはかなり動きが鈍いようである。
建設業（経営者）		受注量や販売量の動き	・当社に関しては、仕事がなく社員を休ませていた3か月前と比べれば、7、8月にバタバタと受注が増えて、現在は人手不足の感もあり、その意味では忙しい分だけ景気が良くなってきたと言える。しかし、厳しい価格での受注なので採算が悪いことを考えれば、景気が良くなってきているとの実感はない。その意味で、景気は変わらないと感じる。	
金融業（融資担当）		取引先の様子	・製造業の業績が比較的底堅いが、個人消費に關係する業種については、非常に芳しくない。やはり個人消費が弱いのだと思う。バラバラであるが中間をとって、やはり横ばいといったところである。	
金融業（融資担当）		取引先の様子	・中国や東南アジアの外需に基づく受注の回復を期待していたが、ここ数か月においては横ばいの動きが続いている。	
やや悪くなっている	繊維工業（経営者）	取引先の様子	・スポーツ、婦人衣料については、今年の冬物の生産が終盤に入っている。また、翌年の春・夏物の準備、一部生産に入っているため、まあまあでなからうかと思う。一方、非衣料については用途によって格差がある。特に車両、自動車関係は悪くなりつつある。	
	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注予測が、現状維持か減少傾向にある。	
	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・欧州、北米、国内とも受注が伸びてこない。	

		電気機械器具製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・スマートフォン、タブレット端末向けの電子部品に関しては、今まではあまりコストダウン要請はなかったのだが、ここへ来て、数量はまだ落ちないものの、コストダウン要請が、かなりきつくなっている。
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・中東の情勢不安により、原油高となり燃料費が収益を圧迫している。欧州の信用不安により、また、中国の経済状況が悪化することにより物の流れが悪くなっている。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・住宅やマンションの着工が芳しくなく、関連した折込チラシの出稿量が半年以上前年同月実績を下回っている。
	悪くなっている	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・一部の業者に、依然として低価格の見積りや入札が見受けられ、適正価格での受注が難しい状況が続いている。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
(北陸)	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・新卒の採用意欲が、各社とも高いと思われる。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・8月に入り、産休・育休要員での需要、また業務量増にとまなう需要がやや発生し始めているが、スタッフのスキルを要求されるため、マッチング（成約）が難しい。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・ほとんど掲載件数に動きがない。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求人数は依然として増加傾向で推移しているが、新規求職者数が14か月ぶりに増加した。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で増加しており、新規求職者数は減少または同水準で推移している。状況は変わらない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・スーパーマーケットの新規オープンにかかる求人が数件みられたものの、総じて欠員補充求人が中心となっており、大きな変動は感じられない。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人の動きに変化がなく増えてこない。介護職、設計などの分野に求人はあるが、人材不足でマッチングしない。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・特に目立った変化が見られない。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・前月までは男女とも登録者が多かったが、今月に入って登録者が激減した。直接雇用のニーズが増えているのかもしれない。
悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・8月の求人広告は、前年同月比約7割である。	